

## 南朝最後の親王

おおそま

## 良成親王御陵墓「大杣御陵墓」

戦いに敗れ、奥八女・矢部で余生を過ごした良成親王。奥深い森に包まれ静かに暮らし、この地で亡くなりました。「大杣御陵墓」は宮内庁陵墓として管理されています。



## 宮内庁陵墓(くないちょうりょうぼ)

宮内庁書陵部陵墓課が管理する皇室の墳墓の総称。後征西將軍宮 良成親王墓は、明治11年(1878)に現在の宮内庁が陵墓に認定し、代々、五條家の子孫が守部(しゅぶ)に任命され御陵墓を守っています。

## 後征西將軍宮 良成親王と五條氏

五條家には天皇繪旨(りんじ)や武家文書など南朝方の動向をうかがい知る「五條家文書」が369通残されています。なかでも良成親王から17通が五條氏に発せられ、当時の五條家当主の頼治・良量に宛てた文書(もんじょ)には、懐良親王が亡くなられた年時が確認できるものや親王の人柄・学芸に秀で教養の高さがうかがわれる書状もあります。

五條家に残る南朝方の文書は、敵陣をかいくくり密かに遠く九州まで届けるため、使用される和紙は、小型の切紙が多く用いられているのが特徴です。

## 大杣公園祭

毎年、良成親王命日の10月8日に行われ、約600年前から続いている由緒ある祭り。この地で亡くなられた親王の御霊を慰めるために、御陵墓の前で、公卿唄(くげうた)や浦安の舞が奉納されます。

## 浦安の舞

昭和15年に皇紀2600年を記念して作られた神楽舞。「うら」は心を指す古語で、「うらやす」で心中の平穏を表す語として、「波立たぬ世」を願う巫女たちによって奉納されます。

くげうた  
公卿唄(市指定無形民俗文化財)

良成親王が矢部の里に籠られた折、京都からお供してきた公卿たちが唄って慰めたといいます。この里の「祝い唄」として、今も唄い継がれています。

## 「御側」(おそば)の地名

この御陵墓に向かう道沿いの小さな集落は「御側」と呼ばれます。親王お付きの人々が近くに住んだことにちなむ名といいます。



## 自然を満喫できる施設「杣の里」

大杣公園をさらに奥へ登っていくと、「杣の里」があります。奥深い森に包まれた宿泊施設で、釣りや陶芸体験、草木染を楽しむ家族連れに人気。南北朝のロマンを散策したあと、ゆっくり滞在するのにオススメです。

(TEL.0943-47-3000)



## 「杣人の家」(TEL.0943-47-2173(不不休)) ※不在の時は上記「杣の里」へ

杣(そま)とは木こりのこと。林業が盛んなこの地は立派な木造の家も多い。「杣人の家」は140年前の古民家を改修して食事どころとなっている。どっしり太い大黒柱が深いツヤを放っている。「公卿さん懐石」という料理も用意され、囲炉裏を囲んでのヤマメの塩焼きは絶品です。